

消防団とは何ですか.....Q&A

Q1 消防団とは何ですか？



消防団は消防本部・消防署と同様に市町村の消防機関です。「自らの地域は自らで守る」という精神に基づき、普段は様々な仕事に就いている住民が非常勤特別職の地方公務員として災害等に対応します。

Q2 消防署とは どう違うのですか？



消防本部・消防署に勤務する消防職員が専門の職業であるのに対し、消防団員は各自の仕事に就きながら、災害時の消防・防災活動や平時の訓練などに従事します。

Q3 働きながらでも 参加できますか？



消防団員は通常、各自の仕事に就きながら、災害時の活動、平時の訓練、防火啓発活動等に従事しています。

Q4 普段はどういう活動を しているのですか？



災害に対応するための訓練や機材の整備点検、住宅用火災警報機の普及活動、防火訪問など、平常時は地域のために活動しています。

Q5 女性や学生でも 参加できますか？



全国で約2万人の女性消防団員が、各家庭への防火訪問や児童・幼児への防火教育、広報活動等、多岐にわたり活躍しています。また大学生・専門学校生も年々増え、若い力を生かし活発に活動しています。

Q6 待遇などは どうなっているの ですか？



市町村から数万円程度の年額報酬や出動手当（概ね1回数千円程度）などが支給されます。また一定期間以上勤務して退団した際の退職報償金支給、被服の貸与、公務災害補償などがあります。

Q7 火災などの災害時には、 どのような活動をするのですか？



火災が起きた際、消防職員と協力して消火活動や近隣住民の安全確保、周辺の交通整理などを行います。また風水害時には、河川等の警戒や土のう積み、避難の呼びかけなど、様々な災害対応を行います。

Q8 消防団に入るには どうすれば いいですか？



消防団の入団資格は市町村ごとの条例で定められています。詳しくは、市役所・町村役場か最寄りの消防署までお問い合わせください。



自分に何ができるのか、
探していた。
これしかない！と思った。

【機能別消防団員・分団制度】

特定の活動にのみ 参加することもできます。

持っている能力や技術を生かし、入団時に決めた特定の活動・役割に参加する制度。災害時はもとより平常時においても、様々な活動をととして、地域に貢献することができます。

※活動の種類や内容は、消防団によって異なります。
※活動範囲は、事前の取り決めなどにより決定されます。

機能別団員・分団の例

機能別団員

火災予防・広報団員

消防職団員 OB 団員

機能別分団

バイク隊・水上バイク隊

女性消防分団

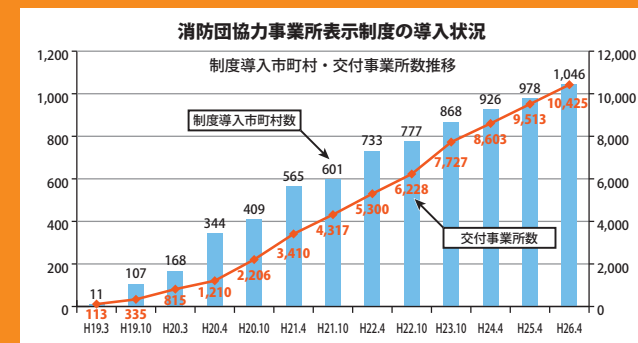
音楽隊

大規模災害のみ活動する分団

【消防団協力事業所表示制度】

地域防災体制の 充実強化にご協力ください。

被雇用者団員が増加する中で、消防団員の活動しやすい環境を作るためには、消防団員を雇用している事業所の理解と協力が不可欠です。消防庁では、「消防団協力事業所表示制度」を設け、地域防災力の充実強化の一層の推進を図ることとしております。認定を受けた事業所は、取得した表示証を表示することにより、地域社会に社会貢献を示すことができます。



消防団のホームページはこちら
<http://www.fdma.go.jp/syobodan>

消防団 検索

お問い合わせ先



飯田悠也さん

25 歳 大学院生
神奈川県横浜須賀市消防団
第 1 分団

A1 大学 2 年の時、消防団のポスターを見かけ、興味を持ちました。考えてみれば、当時は地域の人と触れ合う機会はほとんどないですし、地元の人で顔見知りもいなかったのです。そこで、地域で自分のできることもあるのではと、友人と一緒に入団しました。

A2 月に 1 回定例会があり、そこでは予定の確認や各種訓練などの打ち合わせをします。実際の出動をしたことも何回あります。消防隊員の消火活動を補助するため、近隣住民の通行誘導をしたり、ホースを整えたりもします。地域には山の中腹にある家屋も多いので、消防隊員と連携しながら活動しています。

A3 火災が起きた際、今まではニュースの中の「他人事、」と思っていましたが、実際の現場はとても大変。火災の恐ろしさを本当に痛感しました。平常時は、防災教育や AED の講習などで皆さんに感謝される時が嬉しいですね。こういう経験は他ではできないことですし、今では生活の一部になっています。就職しても、できる限り消防団活動に携わっていきたいと思っています。

A4 定例会の時には皆で近況報告をしますが、そこでのコミュニケーションがとても役に立っています。先輩に相談をしたり、地域のお祭りで神輿を担がせていただいたり、就職の報告をしたり。しかもそれだけでなく、消防団は「みんなを支える縁の下力持ち、」という存在ですから、本当にやりがいがあります。さまざまな世代の方に育ててもらっていますし、僕にとって消防団は安心できる「ホーム、」とも言える場所だと思います。



【災害時の活動】



消火活動

火災が起こった際は、自宅や職場から現場へ駆けつけて消火活動を行います。消防隊員よりも先に現場に到着することもあるため、初期消火や消防隊員の後方支援などをその場に応じて展開します。



救助活動

災害が起こった場合、地域を知り尽くした消防団の救助活動は大きな力になります。大規模災害時には発生直後から地域と連携し、救助活動や避難誘導を行います。



水災活動

風水害の際、河川等の警戒はもちろん、土のうを準備して適切に積んだりすることも大切な活動です。また消防職員と協力して住民の避難や救助を行うとともに、災害復旧作業も支援します。

消防団員にインタビュー

消防団に入ってみて、どうでしたか？



大志田結夏さん

21 歳 大学 3 年生(看護系)
秋田県大館市消防団機能別消防団員

小澤憂花さん

19 歳 大学 2 年生(看護系)
秋田県大館市消防団機能別消防団員

A1 ガイダンスを聞いて「面白そう、」と思いました。それに、普段の勉強も実際に活かすことができるのではと思いました。(大志田) 大学の掲示板を見て興味を持ちました。自分にもできるかな、と不安だったのですが、とにかくやってみよう、と思いました。(小澤)

A2 幸いなことに、入団してからは出動するような大規模な災害は起こっていないのですが、いつ要請があっても対処できるように、消防訓練には積極的に参加しています。特に災害時のトリアージ※の訓練は、大学ではまだ教科書でしか読んでいなかったことだったので、とても勉強になりました。(小澤)

A3 看護学科で勉強していて、将来的に看護師として働く予定なので、消防団での経験が本当に役に立っています。今までは大規模な災害があってもテレビや教科書の中の話に思っていました。しかし消防団の活動を通して、実際の命を守る現場で自分にもできることがあるかもしれない、と思うようになりました。(大志田)

A4 大学で学ぶ看護や救急の知識に加え、実際の現場での作業なども体験できるので、とてもいい経験ができています。今まで知らなかった現場を見ることは必ず新しい経験としてプラスになると思いますし、その中で自分にもできることを見つけて地域の人の役に立てるといのは他ではなかなかできないこと。こうして視野がとても広がったことは、将来の仕事にもかなり活かせると思います。(大志田、小澤)

※トリアージ 災害時等の際、多数の傷病者が発生した場合、負傷者を重症度や緊急度などによって分類し、治療や搬送の優先順位を決めること。



Q1 消防団に入ったきっかけは何ですか？
Q2 普段、どのような活動をしていますか？
Q3 消防団に入って良かったことは何ですか？
Q4 皆さんへメッセージをお願いします！



川島あかねさん

25 歳 公務員
鳥根県雲南市消防団大東方面隊

A1 消防団というと、夜警をしていたり火事の時に活躍する、くらのイメージしかありませんでした。でも市役所に入庁して 2 年ほど経った時に先輩から誘われて、興味を持ち始めました。

A2 火災が起きた時などの出動はなく、主に防火啓発活動を行っています。幼稚園や保育園で子どもたちに防火に関する紙芝居を聞かせたりします。あと、大東方面隊の広報紙「ぎばめ消防団」の編集をしています。

A3 実際の出動はほとんど男性が担当するので、私も役に立つことがあるのか、最初は心配でした。でも幼稚園や保育園で防火教育をしていると子どもたちに元気もらいますし、訓練などでアナウンスを担当したり、広報紙の取材で写真を撮ったりと、自分にもできることがあるんだ、と思うようになりました。こうした後方支援は、消防団にとって欠かせないものなのです。

A4 消防団には幅広い年齢の、さまざまな職業の人がいます。そんな方々と話す機会は、消防団に入らなかったら決して得られなかったと思います。こういう形で地域とのつながりを密接にできたのは本当にいい経験です。それに、私は写真を撮るのが好きなのですが、広報紙の取材でそれが活かせるのはとてもやりがいがあります。女性ならではの後方支援の場は、まだまだたくさんあると思います。



柴田隼輔さん

25 歳 自営業
福岡県八女市消防団
第 1 分団

A1 父親が所属していたこともあって、小さい頃から「大人になったら消防団に入るんだ」と漠然と思っていました。仕事に慣れるまで待っていただき、ようやく一段落した今年、入団しました。

A2 月に 1 回程度、詰所に集まって打ち合わせをしたり夜警をしたりしています。それに加え、今年は消防操法大会※に出場させていただいたので、その訓練をみっちりやりました。

A3 操法大会ではポンプ車部門に出場したのですが、その訓練はおよそ 2 カ月、毎日のようにやっていました。走り込みなどで基礎体力をつけたり、役割に応じた実際の操作などを先輩方に教わって学んだのですが、野球をやっている体力はあったつもりでも、なかなかキツイこともありました。でも、分団のプライドをかけた大会だけに、先輩たちは皆さん熱い思いで教えてくれましたし、周りの人たちも本当に応援してくれました。操作の面でも気持ちでも、チームワークを意識して活動できたことで、自信につながったと思います。

A4 操法大会への出場は、本当にいい経験になりました。地域のいろいろな年齢の人が集まって、一つの目標に向かって団結していくというのはなかなか経験できないことだと思います。まだ実際に火災現場に出動したことはないのですが、今までの経験を活かして冷静に対処できればと思います。抜群のチームワークと「地域を守るのは自分たちだ」という意識は、本当にかけがえのない体験だと思っています。※消防操法大会 日頃の消防団の訓練の成果を発揮し、技術をより向上させることを目的に行われる。「ポンプ車操法」と「小型ポンプ操法」の 2 種類があり、定期的に都道府県大会や全国大会が開催される。



【平常時の活動】



消火・防災訓練

火災現場での消火を想定した訓練(放水訓練等)を行っています。また、各地域で開催される防災訓練にも、消防職員とともに積極的に参加しています。



救命講習会

万一の場合、救急車が到着するまでの応急手当の仕方や、AED の使い方などを指導する講習会などを行っています。また、ケガをした人や急な疾病で倒れた人への対応など、さまざまな指導をします。



防火啓発活動

各家庭を訪問し、防火指導等の啓発活動を行っています。また、地域の幼稚園などでの防火教育をはじめ、高齢者のお宅を訪問したり災害時に救護が必要な方を把握することも重要な役割です。

消防団 DATA

あなたの経験を地域防災に



消防団の特性
消防団は、「地域密着性」、「要員動員力」、「即時対応力」という特性を生かしながら、活動を行っています。



消防団は、消防本部や消防署と同じく「消防組織法」に基づいて各市町村に設置されている消防機関です。地域における消防・防災の担い手として、地域に密着し、住民の安心と安全を守るという重要な役割もっています。また近年は、消防団に参加する女性や学生も増加していて、さまざまな場面で活躍しています。

